

事務事業名	交付金活用橋梁修繕事業	所属部	建設部	所属課	建設工務課	
総合計画体系	政策名	〈Ⅱ〉安全・安心で快適なまち〈定住環境〉	所属G	公共土木G	課長名	松村直樹
	施策名	〈12〉道路の整備	担当者名	内田慎二	電話番号	0854-40-1063 (内線) 2471
	目的:対 象	市民	意図	市内及び市外へ安全で便利に移動できる。	予算科目	会計: 款 大事業 大事業 0 1 4 0 0 1 業名 橋梁維持補修事業 項: 目 中事業 中事 1 0 2 0 0 3 業名 交付金活用橋梁修繕事業
	基本事業名	〈035〉道路の維持管理	目的:対 象	道路利用者	意図	安全に移動できる。

1 現状把握【DO】

(1) 事業概要

① 事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返 (H26 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)
② 事業内容 (期間限定複数年度事業は全体像を記述)	<ul style="list-style-type: none"> ・道路法改正に基づく近接目視による橋梁点検を行い、その結果に基づき、判定会により判断し、橋梁長寿命化計画を策定し、計画的な修繕を行う。 ・現在、2巡目の2年目で、計画的に橋梁点検を実施している。 ・令和3年度からは道路構造物長寿命化事業へ事業内容を引き継ぐ。

(2) 事務事業の手段・指標

手段	① 主な活動	R2年度実績(R2年度に行った主な活動) ・市道橋梁点検の業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託 ・長寿命化計画に基づく修繕工事	R3年度計画(R3年度に計画する主な活動) ・市道橋梁点検の業務委託 ・橋梁点検結果に基づく設計業務委託 ・長寿命化計画に基づく修繕工事			
	2巡目(2年目)	2巡目(3年目)	令和3年度からは「道路構造物長寿命化事業」へ事業内容を引き継ぐ			
② 活動指標		単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)
ア	橋梁修繕数	橋	8	10	8	4
イ	調査設計済橋梁	橋	34	18	1	4
ウ	橋梁点検数	橋	240	184	225	199
エ						

(3) 事務事業の目的・指標

目的	① 対象(誰、何を対象にしているのか)	③ 対象指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)	
	①生活道路の利用者 ②雲南市道の橋梁	ア	人口【国勢調査(推計)】	人	37,012	36,248	36,024	35,818
		イ	雲南市市道延長	km	1,112	1,111	1,108	1,108
		ウ	雲南市道橋梁数	橋	1,035	1,026	1,018	1,018
② 意図(対象がどのような状態になるのか)	④ 成果指標	単位	H30年度(実績)	R元年度(実績)	R2年度(実績)	R3年度(計画)		
①市内を安全で迅速に移動できるようにする。 ②修繕(補修)等を実施する。	ア	生活道路が安全で便利だと感じている市民の割合	%	68.5	63.3	65.2	65.2	
	イ	生活道路で危ない場所があると感じている市民の割合	%	64.6	72.3	65.7	65.7	
	ウ	長寿命化、耐震化を行った橋梁数	橋	8	10	8	4	

(4) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳(2年度決算)		② コストの推移		単位	H30年度(決算)	R元年度(決算)	R2年度(決算)	R3年度(計画)
事業費	【委託料】(R元線)橋梁定期点検業務(その3) 1件 4,629千円 橋梁定期点検業務(その1~2)3,058千円、橋梁点検補助業務(その1~2)992千円、施設点検・診断技術支援業務22千円、橋梁修繕詳細調査設計業務(山王橋)13,215千円、PCB含有調査試験体処理業務165千円、牛ヶ首跨道橋点検業務1,242千円、菅沢跨道橋点検業務1,091千円 9件 計19,785円 【工事請負費】滝見橋修繕工事14,758千円、粟原橋修繕工事21,820千円、八雲橋修繕工事4,921千円、旭橋修繕工事626千円、龍権寺橋ほか3橋修繕工事411千円 5件 計42,536千円 【需用費他】 576千円 【地方債】合併特例債	財源内訳	国庫支出金	千円	50,620	67,782	40,100	68,970
		県支出金	千円					
		地方債	千円	23,800	25,600	20,500	37,100	
		その他	千円			1,091		
人件費	正規職員従事人数	人	3	3	3			
	延べ業務時間	時間	300	500	500			
	人件費計(B)	千円	1,300	2,120	2,104			
	トータルコスト(A)+(B)	千円	86,127	121,714	69,630			

(5) 事務事業の環境変化、住民意見等

① 環境変化 (この事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか? 開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?)	② 改革改善の経緯 (この事務事業に関してこれまでどのような改革改善をしているか?)	③ 関係者からの意見・要望 (この事務事業に対して市民、議会、事業対象者、利害関係者等からどんな意見や要望が寄せられているか?)
・H26年度道路法等一部改正により2m以上の橋梁について5年に1回の点検が必要であり、その結果に基づき修繕が必要となる。 ・R元年から2巡目の橋梁点検を実施している。	・計画的な修繕により橋梁の長寿命化を図る。 ・点検結果に伴う優先順位により、効率的な修繕ができる。また、研修会及び判定会等に参加し、技術の向上に努めている。 ・施設個別計画に基づく道路メンテナンス事業補助制度がR2年度に創設され、雲南市橋梁長寿命化修繕計画により修繕を実施していく。	・市民より橋梁・トンネルの点検や修繕の要望がある。 ・議会より橋梁・トンネルの安全確保が指摘されている。

2 事後評価【SEE】

A 目的 妥当性	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？ 意図することが結びついているか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている * 余地がある場合⇒	見直し余地があるとする理由
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して達成する目的か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である * 余地がある場合⇒	
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加する必要はないか？意図を限定・拡充する必要はないか？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 適切である * 余地がある場合⇒	
B 有効性	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？ 成果を向上させるため現在より良いやり方ははないか？ 何が原因で成果向上が期待できないのか？ <input type="checkbox"/> 向上余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない	理由 ・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 この事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？ <input type="checkbox"/> 影響無 <input checked="" type="checkbox"/> 影響有	理由 ・市道橋梁の安全性が保たれなくなる。 ・道路法の一部改正により、2m以上橋梁を今後は5年に1回点検し、点検結果に基づく修繕が必要となる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的達成には、この事務事業以外の手段(類似事業)はないか？ ある場合、その類似事業との統廃合・連携ができるか？ <input type="checkbox"/> 他に手段がある * ある場合⇒ <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない <input checked="" type="checkbox"/> 他に手段がない	(具体的な手段や類似事業名) 理由 ・市道橋梁独自の事業であり類似事業がない。
C 効率性	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など) <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 ・点検結果に基づき修繕計画を策定し、予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり削減の余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 成果を下げずにやり方の工夫で延べ業務時間を削減できないか？ 正職員以外や外部委託ができないか？ <input type="checkbox"/> 削減余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない	理由 ・道路管理者が行う修繕工事発注であり、これ以上の人件費削減余地はない。
D 公平性	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？ 受益者負担が公平・公正か？ <input type="checkbox"/> 見直し余地がある <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である	理由 ・利用者が市内を安全で迅速に移動できるようにするものであり、公平・公正である。
評価 の 総 括	① 1次評価者としての評価結果 A 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり B 有効性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり C 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり D 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	② 1次評価結果の総括(根拠と理由) ・点検結果に基づき修繕計画を策定する。予防的な修繕等により将来的な経費削減を行うものであり成果は最大である。 ・2m以上の市道橋梁の安全性を保つため、5年に1回の点検結果に基づき修繕が必要である。

3 今後の方向性【PLAN】

① 1次評価者としての事務事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	② 改革・改善による期待成果																					
・道路法の一部改正により、今後は2m以上の橋梁については5年に1回の点検が必要である。なお、点検基準及び要領については平成26年7月に示されたが、平成27年度より近接目視へと変更となり、新たな点検基準及び簡易版点検要領に基づき実施した。 ・橋梁点検計画は、2巡目で平準化を図り効率的に点検ができる。 ・事後保全から予防保全にシフトすることにより、将来的なトータルコストを削減できる。 ・今後、大規模な耐震・補修がある為、国・県等へ補助金の要望等を推進していく。	<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		●	×																		
	低下		×	×																		
廃止・休止の場合は記入不要。 コストが増加(新たに費やし)で成果が向上しない、もしくはコスト維持で成果低下では改革・改善とはならない。																						